

用語の解説

指針値

現時点で入手可能な毒性に係る科学的知見から、ヒトがその濃度の空気を一生涯にわたって摂取しても、健康への有害な影響は受けないであろうと判断される値を算出したもの。今後集積される新たな知見や、それらに基づく国際的な評価作業の進捗に伴い、将来必要があれば変更され得るものである。指針値の適用範囲については、特殊な発生源がない限り全ての室内空間が対象となる。客観的な評価に基づく室内濃度指針値を定めることは、化学物質が健康影響の危惧を起すことがないように安全かつ適正に使用され、化学物質が本来もっている有益性が最大限生かされることに大きく貢献するはずだからである。

※シックハウス（室内空気汚染）問題に関する検討会中間報告書その4（厚生労働省医薬局）を引用

曝露

化学物質などに生体がさらされることをいう。室内空气中化学物質の曝露経路は、ほとんどが経気道（呼吸）によるもので、その他の経路として接触（皮膚、粘膜）がある。また、このほかの曝露経路としては、食事や水からの経口曝露がある。曝露した化学物質はすべて吸収されるのではなく、それぞれ異なる吸収率により体内に取り込まれていく。

マイアミ宣言

子供の環境保健に関する8ヶ国の環境リーダーの宣言（1997年のG8環境大臣会合）の通称。「我々は世界中の子どもが環境中の有害物の著しい脅威に直面していることを認識している。

（中略）有害物に関する情報が十分でないときは、我々は予防的な原理または予防的アプローチに則り、子どもの健康を守ることに同意する。」と宣言した。

接着剤

接着剤は建物の様々な部分に使用されるため、そこに含まれる揮発性化学物質も大量となる。代表的な用途として、壁や天井のクロスの貼り付け、フローリングの取り付け、家具の組み立てなどがある。接着剤は用途に応じて成分が異なっているが、主な溶剤として酢酸ブチル、トルエン、キシレン、酢酸ビニルが使用されている。これらはいずれも揮発性が高く比較的短時間で放散量が減少する反面、使用直後は高濃度になるため適切な低減対策をせずに環境測定すると高い数値を示す。なお、溶剤に揮発性化学物質を使用しない水性接着剤や溶剤そのものを含まないホットメルト接着剤なども開発されているが、施工が難しかったり用途が限られている。

溶剤

物質を溶かすのに用いる液体。塗料や接着剤などを薄めて使用しやすくするために用いられており、本来の目的を早く発揮させるために揮発性が高い液体を使用することが多い。一般的にトルエンなどの化学物質を用いた有機溶剤を「溶剤」と呼んでいる。なお、有機溶剤を用いない水性タイプも広く使われている。

仕様書

設計図には示すことのできない施工方法、材料の品質、仕上げ程度などを指示する図書。建物に必要な事項を記載することで、設計図で確認できない部分を明確にすることができる。

リスクコミュニケーション

リスク（健康影響や災害など）に関する正確な情報を行政、関係者、住民などが共通認識をもち相互に意思疎通を図ること。リスクへの不安や問題点などに応えることで信頼関係を獲得したり、適切な選択によりリスクの低減が期待できる。